

## 災害時のトイレについて調べる

平成7年（1995）1月17日午前5時46分 阪神・淡路大震災 発生

### ◆トイレは待ったなし

市内全域で断水 → トイレの水が出ない

避難所や公園のトイレが汚物の山に。

神戸市の高い水洗化率（97%）がアダに。仮設トイレの備蓄はゼロ。使えたバキュームカーはたった5台。全国から仮設トイレ3000基とバキュームカーの支援を受けました。

### ◆仮設トイレは すぐには来ない

地震翌日から仮設トイレが全国より運び込まれ、汲み取り業者の組合である環整連のバキュームカーと応援人員も駆けつけましたが、避難所の状況把握が困難で市の対応が遅れるうち、市民からの苦情が殺到します。仮設トイレ設置にかかるも、大渋滞と倒壊家屋にはばまれ、なかなか進みませんでした。

1/18はわずか79基、1/21でも524基でしたが、1/31には2381基、最終的には3000基に達しました。100人に1基いきわたったところで設置の要望は減少しました。

### ◆その時 避難所では

東灘区 福池小学校（ピーク時は2千人が避難） 教頭先生の記録

1月18日（水）12:00

水が出ないため学校中のトイレが大便の山となり、子供たちは泣き出した。昨夜のうちに、学校の庭や校舎の裏に沢山の大便がされていた。学校に避難している保護者が中心になって大便を袋に入れ始末することにした。協力者を募り2時間かけて取り除き、残っているプールの水をバケツで汲みだしてトイレを掃除した。

『VOICE OF FUKUIKE: 福池小学校保護者の震災記録集』より

プールや川から水をくんでバケツにくみおいてトイレを流した。やがて避難者は、水くみと清掃を当番制で行うようになった。清掃に来たボランティアもいた。

水を調達できなかった避難所や家庭では、新聞紙を敷いて用後はくるんでゴミに出したところもあった。

紙は流れにくいので、トイレ内にゴミ袋を用意して捨てた。

校庭に穴を掘ったり、マンホールを開けたりして足場を作ったトイレもあった。

水分補給をひかえて健康被害がでた高齢者がいた。

高齢者や障害者は、入口に段差があり和式の仮設トイレ使用が困難。ポータブルトイレや座れるよう工夫したトイレを作った所も。

市はボランティアに依頼して、仮設トイレの使用法の啓発用チラシ配布・苦情聞きとりを行った。

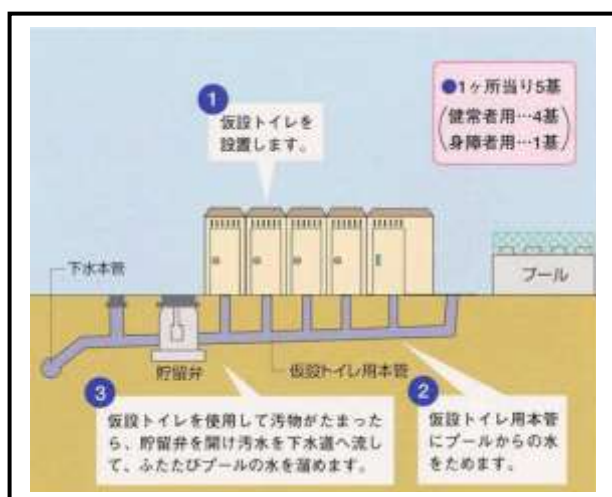
仮設トイレは設置と同時にバキュームカーで汲み取りが必要となる。汲み取り要請も殺到したが渋滞で難航した。

「日本トイレ協会」「神戸国際トイレピア」の団体が清掃と共にトイレ事情を調査した。

## ◆初動対策が肝心

神戸市では、指定避難所である小・中学校を中心に平成9年度より「公共下水道接続型仮設トイレ」を整備しています。300基（60カ所）。

仮設水洗トイレ用の下水道管をあらかじめ布設しておき、災害時には仮設トイレ用下水道管に設置されたマンホール上部に仮設トイレを組立・設置し、下水道に汚物を直接流します。これによりくみ取りの必要がなく、クリーンなトイレを保つことができます。



### 公共下水道接続型仮設トイレ

（神戸市ホームページより）

防災訓練で、上に設置する仮設トイレの組み立ての練習も行われています。

### ＜神戸市の災害時トイレ対策＞

ホームページ→地域防災計画→廃棄物処理計画  
→し尿処理システム を参照



### 『避難所等におけるトイレ対策の手引き』

兵庫県 2014

水の有り無し・トイレの被害状況によつてのチャート式の対策、トイレにそのまま貼って使える注意書、民間業者との連携・協定案など実践に即した手引きです。

### ◇井戸整備へ 2015年～

兵庫県は、避難所に指定されている県内小中学校に手動ポンプ式の井戸を整備する方針を決めました。

### 【参考図書】

書架分類：震518A ほか

『阪神大震災トイレパニック：神戸市環境局・ボランティアの奮戦記』1996

『まちづくりにはトイレが大事』1996

『震災時のトイレ対策：あり方とマニュアル』1997

『阪神・淡路大震災 神戸復興誌』神戸市 2000 p173～災害時のし尿処理について

『トイレが大変！：阪神・淡路大震災と新潟県中越大地震の教訓』2005

『生死を分けるトイレの話：災害時のトイレ問題とその解決策』2012

『オストメイトはその時・・・』1996（※オストメイト＝人口肛門保有者）